

キャリアラダー

経験年数の目安		新卒～、新任	卒2～卒3	卒4～6	臨床経験7年～9年	臨床経験10年以上		
レベル		レベルⅠ (社会人・職員としての役割、メンバーとしての自覚)	レベルⅡ (メンバーとしての役割)	レベルⅢ (自律したジェネラリストとしての役割)	レベルⅣ (指導的立場に立った役割)	レベルⅤ (管理的視点に立った役割)		
レベル毎の定義		看護手順に従い、助言を得て看護を実践する 自己の教育的課題を見いだす	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する 自己の教育的課題に向けて、指導の下活動する	患者のニーズをとらえた個別的な看護を実践する 自己の教育的課題達成に向け活動する	多角的な視野と予測的な判断を持ち看護を実践する 自己の教育活動に取り組むと共に、部署内で教育的支援をする	複雑な状況においても個別性を考慮した最適な手段を選択し看護を実践する 専門領域の教育プログラムに参画し、部署内外で教育的支援をする		
看護実践力	ニーズをとらえる力	レベル毎の目標	助言を得て患者や状況(場)のニーズをとらえる	患者や状況(場)のニーズを自らとらえる	患者や状況(場)の特性を踏まえニーズをとらえる	患者や状況(場)を統合しニーズをとらえる	患者や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる	
		行動目標	・助言を受けながら患者に必要な身体的、精神的、社会的な側面から必要な情報収集ができる ・患者の状況から緊急度を捉えることができる	・自立して患者に必要な身体的、精神的、社会的な側面から必要な情報収集ができる。 ・得られた情報を元に、患者の全体像としての課題をとらえることができる	・患者に必要な身体的、精神的、社会的な側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる。	・予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的な側面から必要な情報収集ができる ・意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	・複雑な状況を把握し、患者を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる ・患者や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる	
	ケアする力	レベル毎の目標	助言を得ながら、安全な看護を実践する	患者や、状況(場)に応じた看護を実践する	患者や状況(場)の特性を踏まえた看護を実践する	様々な技術を選択し、応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する	
		行動目標	・指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる ・指導を受けながら、患者に基本的援助ができる ・看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	・患者の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる ・患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる ・患者の状況に応じた援助ができる	・患者の個性に合わせて、適切なケアを実践できる ・患者の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる ・患者の個性を捉え、看護実践に反映できる	・患者の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる ・幅広い視野で患者を捉え、起こりうる課題や問題に対して予測的及び予防的に看護実践できる	・患者の複雑なニーズに対応するため、あらゆる知見(看護及び看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる ・複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる	
	協働する力	レベル毎の目標	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	患者やその関係者、多職種と連携ができる	患者を取り巻く多職種の力を調整し、連携できる	患者の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす	
		行動目標	・助言を受けながら患者を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる ・助言を受けながらチームの一員としての役割が理解できる ・助言を受けながらケアに必要な判断した情報を関係者から収集することができる ・患者を取り巻く関係者の多様な価値観が理解できる ・報告・連絡・相談ができる	・患者を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれ積極的に情報交換ができる ・関係者と密にコミュニケーションを取ることができる ・看護の展開に必要な関係者を特定できる ・看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	・患者の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力しながら多職種連携を進めていくことができる ・患者とケアについて意見交換できる ・積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	・患者が置かれている状況(場)を広く捉え、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる ・多職種間の連携が機能するように調整できる ・多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	・複雑な状況(場)の中で見えにくくなっている患者のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる ・多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる ・目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる	
		レベル毎の目標	患者や周囲の人々の意向を知る	患者や周囲の人々に意向を看護に活かす事ができる	患者や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	患者や周囲の人々の意思決定に伴う揺らぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担う事ができる	
	意思決定を支える力	行動目標	・助言を受けながら患者や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	・患者や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる ・確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	・患者や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる。 ・患者や周囲の人々の意向の違いが理解できる ・患者や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	・患者や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参画し、適切な看護ケアを実践できる	・適切な資源を積極的に活用し、患者や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる ・法的及び文化的配慮など多方面から患者や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる	
	自己教育	自ら学ぶ力	レベル毎の目標	部署の教育プログラムに関心をもち、自己の教育的課題を見いだすことができる	自己の教育的課題を見いだし、指導の下、解決に向けて活動することができる	自己の教育的課題達成に向けた活動を自律して展開することができる	自己の教育活動に積極的に取り組むと共に、指導的な役割を実践することができる	単独で専門領域や高度な技術等についての自己教育活動を展開することができる
			行動目標	・基本的な知識・技術を習得できる ・疑問や不明な内容について調べる事ができる	・看護局の目標に沿った自己の課題に応じた院内教育に積極的に参加することができる ・看護研究の意義がわかり、協力することができる	・組織の理念・目標に沿った自己の課題を明確にし、専門分野の看護実践力を高める ・看護研究に取り組む事ができる	・自己のキャリア開発に向け、院外の研修に参加し、新しい知見や情報を得ることができる ・主体的に看護研究に取り組む事ができる	・自己研鑽し、高いレベルで専門的技術を維持することができる ・研究的視点を持ち、看護研究の支援をすることができる
		指導する力	レベル毎の目標	自己の意見に責任を持つことができる	指導のもと、教育活動に参画することができる	部署の目標に沿った教育プログラムに主体的に参画することができる ・学生や後輩育成に参画することができる	部署の目標に沿った教育プログラムに参画し、部署内の教育的支援ができる	関連する専門領域の教育プログラムに参画し、部署内外を対象に教育的支援ができる
			行動目標	・同僚と解決方法を一緒に考える事ができる ・集団の中で自らの意見を述べることができる ・学生指導に関心をもち事ができる	・実習要綱を把握し、指導することができる ・同僚に自ら声をかけ、解決方法を一緒に考える事ができる ・「リセプター」としての役割を担うことができる(卒3以上) ・根拠のある評価を元に教育計画の立案に参画することができる ・学んだことを部署内で伝達することができる	・主体的に部署内の教育プログラムの立案・実施・評価ができる。	・部署内の教育プログラムの企画・立案・実施・評価することができる ・指導的役割を担うことができる	・院内全体に向けて専門的看護の教育プログラムを企画・立案・実施・評価できる